

まなび

発行 松永生涯学習センター編集室
住所 福山市松永町三丁目1番29号
電話 084-934-5443



メール matunaga-shougai-gakushuu@city.fukuyama.hiroshima.jp
(QRコード)

●●● 人の歩みに学ぶ松永教室

●●● 講演会開催のお知らせ

「備後畳表をユネスコ無形文化遺産へ」 ～日本建築文化を守る歩みに学ぶ～

講師 佐藤 圭一 さん

福山大学工学部建築学科教授。
備後地域特産の高級畳表「備後表」と、その原料の「備後い草」の継承に取り組む。
備後表継承会会長。

日時 **3月21日(日)**

開場13:00/開演13:30
終了15:00(予定)

会場 **西部市民センター5階 多目的室**

※ **インターネットでも配信します**
(使用ソフト: ZOOMミーティング)

●申込みについて

- 受講料は無料です。
- 事前申し込みが必要です。
- 定員: インターネット 100人
(先着) 西部市民センター 20人
- 申込み/問合せ先 松永生涯学習センター
電話 084-934-5443
E-Mail matunaga-shougai-gakushuu@city.fukuyama.hiroshima.jp

●インターネット配信について

- ZOOMミーティングを使用します。
- ミーティングIDはメールでお知らせします。
- 詳しくはお問合せください。

●新型コロナウイルス対策について

- 緊急時の連絡先など、情報提供をお願いします。
- マスクを着用してご来場ください。
- 受付で手指消毒と検温をお願いします。
37.5度以上の場合は入場できません。

●主催 松永生涯学習センター

防災とボランティア週間展示報告(1/15~1/21)

1995年(平成7年)1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災は発生しました。

この地震では、6,000人を超える尊い命が奪われた一方で、人と人との助け合いにより多くの命が救われました。災害時は、自分の身は自分で守る「自助」と地域住民やボランティアなど人と人が助け合う「共助」が大切です。この地震では、警察や消防機関による被害者救助が追いつかず、要救助者35,000人のうち27,000人は家族や隣人達の力により助けられました。

この地震を教訓として、災害時のボランティア活動や地域での自主的な防災活動についての認識を深めるとともに災害への備えの充実強化を図る目的で1月17日は、「防災とボランティアの日」、1月15日~1月21日は、「防災とボランティア週間」と制定されました。



展示風景



コミュニティセンターでは、毎年施設利用者を対象に、施設の設置目的や利用にあたって注意することなどを説明するとともに、人権問題をテーマにした啓発講座を開催しています。

1月16日（土）松永コミュニティセンターで施設利用者学習会が開催されました。

テーマ『『自分らしさ』ってなんだろう？～こころもからだもいろいろ、彩り豊かでええじゃん～』

最近、「LGBT」という言葉を聞く機会が増えてきましたが、「LGBT」とは性的少数者を表す言葉です。「自分の性別と心が違う」、「好きになる対象が同性」などさまざまありますが、その対象となる人の割合は8.9%とされています。これは左利きやAB型の割合と同じくらい高い割合です。ということは、私たちの身近にもいるということです。



この講座では、当事者である當山敦己さんと高畑桜さんを講師に迎えて、基本的な学習やお二人の育ってきた中での悩みや葛藤のお話、そして今、性について悩む子どもたちや保護者の居場所「ココいろ hirosshima」をつくり活動をしているお話をしていただきました。



「人と違うことはいけないことだと悩み、「普通という圧力」と「先の見えない不安」を誰にも相談できずに一人で抱えていた。カミングアウトを決意し両親や信頼できる先輩に受け止めてもらい、自分は一人じゃない、仲間がいる、自分は大切な存在なんだと、自分らしく生きようと思えるようになった。」

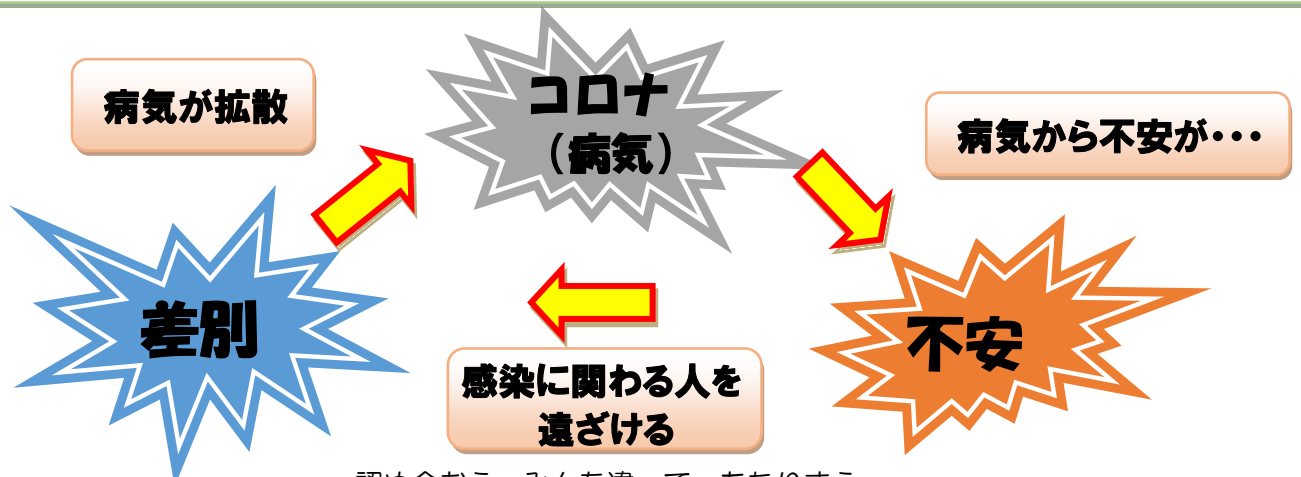
「誰にも相談できないことが大きな問題であり、知ろうとする姿勢や否定せず受け止める関わり方で安心感や信頼感が生まれる。そのままの自分でいいんだと

自己受容ができたなら他者受容ができる。自分も受け止める存在になりたいと、ココいろ hirosshima を二人で立ち上げ、ありのままの自分でいられる居場所づくり、講演など啓発活動をしている。みなさんも受け止める存在になりませんか？」と問いかけられました。

参加者からは、「もっと早くこの勉強をしていたら、今まで出会った人に違う対応ができたのではないか。」「書類の中の男女欄はこれからなくしていくべきではないか。」などの意見がありました。

このお話はLGBTの人たちだけにあてはまるものではありません。誰しも多少は人と違うところはあります。隠したり自分にうそをついたりせず、ありのままの自分を出せる社会が必要です。そのためには受け止められる社会にならなければいけません。どんな問題においても知ろうとする気持ちを持ち、人の思いを受け止められるようになりたいと思いました。

《コロナ差別についていま一度考えましょう》 『その言葉・行動は人を傷つけていませんか？』 人を傷つける言動はやめましょう！！



【パネル展】「フレンドリーピックまつながカープチェーから広げよう！多文化共生の輪」

展示期間：2021年1月29日(金)～2月8日(月)
 展示場所：西部市民センター1階エントランス及びサロン

毎年1月下旬から2月上旬に開催していましたが、多文化共生事業「フレンドリーピックまつながカープチェー」が、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度(第12回)は延期となりました。

しかし、依然として西部地域は、外国人住民や技能実習生など多くの外国籍の方々が居住しています。引き続き多文化共生のまちづくりを推進するために、まつながカープチェーの成り立ちやこれまでの内容などを振り返り、また福山市における多文化共生の取組について啓発する目的で、パネル展を開催します。

新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況ではありますが、2021年度以降、まつながカープチェーをはじめとした各種事業が行えるように、工夫を凝らしながら進めていきますので、このパネル展を通して、多文化共生の灯を絶やさず、さまざまな人とのつながりを広げていきましょう！！



情報びっくりに箱

講座に参加する時は
マスクを着用してください

松永図書館 (933-3770)

<2月の行事>

☆展示「強いからだをつくる！」

- 期 間 2月1日(月)～3月15日(月)
- と ころ 松永図書館 展示コーナー
- 内 容 健康法や栄養に関する本などを約80冊展示します。



<<図書館のお休み>>

2月5日(金)～9日(火) 特別整理期間

藤江公民館(935-7401)

☆社会教育活動事業

スマートフォンでインターネットを楽しもう

- と き 2月25日(木) 13時30分～15時
- と ころ 藤江公民館 2階大会議室
- 内 容 講義と実技
- 対象者 成人一般
- 講 師 高橋 佳純 さん



【(株)トモテツセブン モバイルマルチメディア事業部】

- 定 員 10人
- 申込み 必要
- 持参物 お持ちのスマートフォン
※スマートフォンをお持ちでない方は、貸出可能です。申込時にお伝えください。(台数に限りあり)
- 申込み・問合せ 藤江公民館へ

SDGs 17 の目標紹介

今月は

9 産業と技術革新の基礎をつくろう



■産業基盤の地域格差が広がっています。

- 40億人がインターネットを利用することができません。
- 電気を使えない人が10億人います。
- アフリカでは40%も生産性が落ちています。
- 基盤（インフラ）とは交通・送電・通信・医療・教育などあらゆる機能のことです。

■世界中の産業基盤が整うには…

- インフラ整備のための投資を各地域に促す。
- 電力や交通など、地域に合った技術で基盤整備を進める。
- 世界中でインターネットが安く使えるようにする。
- 新しい技術を取り入れ、将来に渡って持続可能な産業を育てる。

10 人や国の不平等をなくそう



■世界にはいろいろな不平等があります

- 10%の富裕層が世界の富の40%以上を持ち、世襲しています。
- 学校に通う障がいがある子や若者は2%未満です。
- 人種・民族・性別・宗教などの違いで不利益があります。
- 産業基盤の地域格差が広がっています。

■人や国の不平等をなくすには…

- 不平等を被った人や国の社会的・経済的・政治的立場を高める。
- 開発途上国が国際経済や金融の意思決定に参加する。
- 対象から漏れている人や国にサービスが届くよう取組む。
- 移住労働者の送金の費用を引き下げる。

「SDGs」(エス ディー ジーズ) は、「Sustainable Development Goals」の頭文字で、「持続可能な開発のための目標」という意味です。ユニセフ（国際連合児童基金）が、すべての人が幸福に暮らし続けるために提唱したもので、17の目標と169の具体的な行動の項目を定めています。「まなび」では17の目標を連載で紹介し、関連する記事に目標のアイコンとロゴを掲載しています。

14 海の豊かさを
守ろう

SDGs

海の豊かさを守ろう

ゲタなび

ある釣り番組で、旬の魚や釣り方などと一緒に「先着の人や地元の人に敬意と挨拶を…」「釣り後はきれいに…ゴミは持ち帰りましょう」など、釣人に求めたい礼儀やマナーの紹介がありました。「釣りを極める」とは、こうした一連の価値観を心得ること。言わば“釣り道”でしょうか。

功績を残したスポーツ選手の記事を読んでいると、「努力をしたのは自分だが、努力できる環境を整え見守り励ましてくれた周囲の人がいなければ今の自分はありません…」という旨の話がありま



した。「スポーツを極める」とは、技術とともに、人格を備えること。いわば“スポーツ道”でしょうか。いずれも、人の生き方に触れる話かと…。

日本料理や日本建築が世界の「遺産」として評価された記事を読むと、この国で育った者の一人として嬉しく思います。合わせて、“道”に例える価値観も次世代に継ぎたい「遺産」では…と思います。